

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 46 回会合 発言録

2024 年 3 月 11 日

【加藤】 それでは、皆さんお時間になりましたので、始めさせていただきますと思います。

今日のアジェンダに沿いまして進めていきたいと思いますが、まず、今日は総務省様から望月様がお出になっていますが、望月様、何か御報告なり、コメントいただくことございますでしょうか。

【望月】 今この瞬間、私ども総務省のほうから皆様にお知らせすることは特にございませんので、そのまま進めていただければと思います。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。もし途中でコメント等いただくことがあれば、よろしくお願ひしたいと思います。

【望月】 承知です。

【加藤】 よろしくお願ひします。

まず、それでは、スケジュールに沿って、河内さんから御連絡いただくことありますか。MAG のほうでいろいろと進展があったと理解しておりますので、よろしくお願ひします。

【山崎】 まだ河内さんがお入りになられていないようです。

【加藤】 加藤ですが、聞こえておりますでしょうか。

【山崎】 聞こえています。河内さん、まだ入られておられないようですが、次、先に行きますか。

【加藤】 そうですね。次の NRI のほう、それでは、よろしくお願ひしたいんですけど、NRI のほうも特にないですか。

【山崎】 NRI のアップデート自体は、先日、メールで御報告したものの以上にはないんですけど、それを、もう一度繰り返しますか。

【加藤】 はい、お願ひいたします。

【山崎】 2 月 16 日、ちょっと前になりますけれども、開催されました。いつものことなんですけれども、結構、NRI の会議はアフリカ地域の国々からの参加が多くて、初めての方も結構いらっしゃるの、最初は自己紹介みたいなものなんですけれども、それが済んでから、MAG 会議における NRI ということで、次に、書いてあるような議論がありました。

1 月に引き続いて、2 月も MAG の議長がゲストとして、NRI の会議に参加されました。こういうことができるということが提案されました。一々読み上げるのは、もう時間もありますので省略しますけれども、こういった感じで、議員トラックですとか NRI セッションですとか、ポリシーネットワ

ーク、PNMA というのは、Policy Network on Meaningful Access というものをについて言及されていますけども、そういった提案がなされました。

3 番目として、NRI の今年の年間作業計画についての議論となりました。

最後に、国連の担当者は、IGF2024 のホスト国、サウジアラビアが、国内 IGF の開催に関心を示していて、それに対して、参加者がもし必要ならサウジアラビアの IGF に支援を提供する用意があるとおっしゃっていました。

次回ですけども、3 月 25 日、月曜の夜中、23 時から開催予定となっています。ここでは投票となっていますけども、この投票は終わっています。そんなところでしょうか。

【加藤】 どうもありがとうございます。すいません、繰り返しになって恐縮ですけれども、よく状況分かりました。次回は 3 月 15 日ぐらいだったですよ。もうすぐですよ。

【山崎】 25 日です。

【加藤】 25 日ですか。ごめんなさい、15 日は MAG の次の会議ですね。失礼しました。混乱して申し訳ありません、いろいろな会議が続くものですから。皆様の NRI の状況について、御質問等ございますか。

もし特になければ、今、河内さんが参加されたのを拝見しましたので、アジェンダを戻りまして、河内さんのほうから、前回の MAG にリモートで参加していただいて、その後のフォローということで御報告お願いしたいと思います。河内さん、よろしく申し上げます。

【河内】 ちょっと待っていただければと思います。

【山崎】 河内さん、資料の共有はされますか。

【河内】 しようと思うんですけど、できますか。

【山崎】 私のほうの共有を解除しましたので、画面共有していただければ。

【河内】 すいません。MAG の会議からですよ。

【加藤】 MAG のほうからお願いします。

【河内】 これで映っていますか。

【加藤】 映っています。

【河内】 MAG の会議が先々週の火水木と夜、行われました。リモートで参加しました。一応、最初の日、27 日の最初、午前中はリーダーシップパネルとの意見交換ということで、Vint Cerf が出てきて、もう既にリーダーシップパネルがつくっている今年の前定とかテーマ、5 つのテーマとか、そういうのはもう既に前にもらっていて、前回の MAG のリモート会議でも、その内容について、リーダーシップパネルに参加している MAG の Chair からいろいろ説明があったので皆、大体理解はしていたので、それをどういうふうに MAG とリーダーシップパネルでどうやって協力して、今年 12 月の年

次 IGF の会合までに、会合に向けて、いろいろなことやっていったらいいかということについて、意見交換が行われました。

ここに少し書いてありますけれども、やはり IGF ってあまり一般の人たちに知られてないんじゃないかとか、なので、IGF って、インターネットは今、世界中で、ほとんどの人たちが、つながっている人のほとんどの人たちがなくてはならないようなもの、インフラになっているにもかかわらず、それがいろいろな課題を抱えているということ自体、分かっていない人も、日本人とか特に分かっていない人も多いし、それから、国によって抱えている課題が違うので、その人の国では課題じゃないけど、ほかの国では大きな課題になっているとか、そういうことをグローバルに考えていかなきゃいけないということがどれだけ重要かということがみんな分かっていないので、もう少しその重要性についていろいろなところで紹介して広めていくべきじゃないかということで、例えばネットフリックスで、インターネットとか、インターネットガバナンスとか IGF についてのショートビデオみたいなのをつくって流したらどうだとか、それじゃ、1 話じゃ終わらないから 20 話必要じゃないかとか、いろいろ言っていました。20 シーズン必要じゃないかとか言っていましたけど、何かしらの方法で、もう少し広くいろいろな人に知ってもらわなきゃいけないかという話などをしていました。

それから、その日の続きですけども、飯田さんもリモートで参加されて、今、いらっしゃるのか分からないですけど、2023 年の京都の IGF の総括というか、報告をされていました。

それから、次に 2024 年 12 月の IGF の準備状況なんですけど、ホスト（国）のサウジアラビアの人からプレゼンテーションがありまして、これもウェブサイトに乗っているのでもう御覧になっている方がいらっしゃるかもしれないんですけど、パワーポイントがウェブに乗ってまして、これを、このアドレスをチャットに貼りますので、今、チャットに貼りましたが、画面も共有します。これで、共有されていますか。

【加藤】 はい、されています。

【河内】 これ、ウェブに乗っているのでも、後でいろいろ見ていただいたらいいと思うんですけど、サウジアラビアの場所から始まりまして、気温とかいろいろ、何かいろいろ今後たくさんの国際イベントが何か企画され、計画されている、予定されているそうです。一応、Riyadh の IGF については、日程は前にも御紹介したとおり、12 月 15 日から 19 日までとなっています。ハイブリッドで 1 万人現地参加を期待しているというところですかね。今年の京都を超えようという目標を持っているそうです。

King Abdul Aziz International Conference Center って、これも前に御紹介したと思うんですけど、その会議場で行われる予定ということになっています。アクセス、これはよく分からないんですけど、どんなエアポートがいいのか分からないけども、これは行くときに調べればいい話なので、ちょっと飛ばします。

この辺は、あとサウジアラビアのいろいろな情報についてですけども、あと、ロゴがこんなふうなだと。真ん中のひし形みたいなやつは、サウジアラビアの意味、ここで一生懸命説明していましたけ

ど、歴史的な建造物の形から来ているみたいなのを言っていました。色の意味も言っていました。ラベンダーの色と言っていましたかね。

これで、会議場ですけど、すごいですよね。王宮みたいところで、本当にそうなのかは分からないんですけど、中もすごい、なんかすごいですよね。宮殿の中でやるみたいな感じですけど、本当かどうかわかりませんが、こういう場所でやるそうです。こんな感じで、後でまた、ゆっくり見てください。

ロードマップ、これは予定表だと思うんですけど、今、一応予定はこんなふうにするつもりとっています。それで、一応、これは細かくあまり見ていないんですけど、これ、ほかのイベントでも何か宣伝しようと思っているんですかね。アウトリーチプランなので、いろいろな関連イベントも、ちゃんと視野に入れて計画しているのと言っていました。これで、これは終わりです。

それから、さっきのに戻って、それが 2024 年の IGF の紹介です。準備状況の紹介です。それから、あとは、その日の午後というか、日本時間は別に夜中なんですけど、夜から IGF のテーマについて、まず、1 月末までに、前回の活発化チームの会合でも御紹介したと思うんですけど、1 月末までに意見募集があった結果を受けて、どんなテーマにするかという意見交換なんですけど、幾つか案が何セットか出されて、1 セットはリーダーシップパネルが 5 つのテーマを挙げていたと思うんですけど、その 5 つのテーマをそのまま使ったらどうだという案があったりとか、もう一つはホスト国のサウジアラビアが出してきた案が、3 つのサブテーマのセット、それから、もう一つは、多分、1 月末までの意見募集の結果からつくったセット、3 セット出てきて、その中のどれにするかということで、この辺、細かく言いませんが、まず、メインテーマについてはホスト国が出してきたんですけど、どれも最初、マルチステークホルダーというキーワードがとても重要じゃないかという議論をしていたのに、その次の日に、サウジアラビアが出してきたメインテーマが、どれもマルチステークホルダーというキーワードが入ってなくて、それを、昨日あれだけ議論したのに、どうしてどれも入っていないんだみたいなことをみんなが結構言ったところ、結局、もう 1 回、ホスト国が持ち帰って、最終的にはここに書いてありますけど、Building our multi-stakeholder digital future というメインテーマで落ち着きました。長いこと議論した結果、そうになりました。

それから、サブテーマですけれども、さっき言った 3 セット、ここに書いてあるんですけど、①は IWW、Internet We Want のリーダーシップパネルの 5 つのテーマ、それからホスト国が提案したテーマ、それから 3 つ目は、MAG がもともと 1 月末の意見募集の結果を受けた提案が 3 つあって、それをどれにするかという議論をして、最初はリーダーシップパネルが出してきた、5 つの①のやつと③を混ぜたらどうだとか、さんざんいろいろ議論した結果、ここでは結論が出ないで、飛ばしてというか、順序を逆に言いますが、翌日、議論をまた続けた結果、ここに書いてある 4 つ、結局もともと③の MAG が出したテーマをいろいろ修正した結果なんですけど、1 つ目が、Harnessing innovation and balancing risks in the digital space、2 つ目が、Enhancing the digital contribution to peace, development, and sustainability、3 つ目が、Advancing human rights and inclusion in the digital age、4 つ目が、Improving digital governance for the Internet We Want。Internet We Want はここに入って

いるからいいんじゃないかという、①がいいんじゃないかという意見は却下して、この結果に結局なりました。

去年、サブテーマが8つあったのはやはり多過ぎるだろうという議論から最初は始まっていて、サブテーマが多過ぎると、セッション数も多くなるんじゃないかとか、いろいろな意見があって、結局、今年は絶対少なくとも4つか5つにしようと、多くても5つにしようという議論の結果、4つに収まって、最初はこれも5つだったんですけど、5つを4つに縮めて、4つにサブテーマはなりました。

戻りまして、セッションについてなんですけど、さっきのサブテーマが多いというところとつながるんですけど、京都での会議とか、私、その前はあまりちゃんと出ていないので分からないんですけど、セッション数とかセッションの種類が多過ぎるんじゃないかと。しかも朝8時半からなので、早過ぎてそんなの駄目だみたいなことをみんな言っていて、もうちょっとセッション数とかを減らすべきじゃないかと。

特にワークショップとタウンホールとオープンフォーラム、その辺は区別がつかないと。もともとちゃんとそれぞれ目的とか対象となる、ホストするオーガニゼーションの種類とかそういうのもあったのかもしれないですけど、結局マルチステークホルダーでやらなきゃいけないので、いろいろなステークホルダーの人とか地域の人をスピーカーに入れたりすると、スピーカーも増えるし、セッション数も多いし、結局どのセッションにも、全てのステークホルダーが出ていたりとかすると、あまり区別がつかなくなって、一つすごく言っていたのは、ワークショップとタウンホールに似たようなセッションがいっぱいあると。ワークショップで通らなかった人がタウンホールでやっているんじゃないかとか、それは、締切りは両方一緒だからそんなことはないと事務局が一生懸命言っていましたけど、そういういろいろ議論もあって、ワークショップ、タウンホール、オープンフォーラム、ネットワーキングなどは、どういうふうにするか議論、全部継続するべきなのかどうか議論すべきという意見がありまして、結局、これも飛ばすんですけど、下へ行って、オープンフォーラムは継続すると。もちろんワークショップも、ワークショップは継続。オープンフォーラムは継続するけども、タウンホールは廃止するということになりました。

それから、これすいません、何か変になっています。文字が変になっちゃっていますけど、Launch and Award は、今まで事務局が全部評価して、どのセッションをやるかというのを決めていたみたいなんですけど、今後はMAGが評価するべきと。それと、それぞれの、昔は、ライトニングトークだったかな、昔はランチの時間とかそういうところ、あと、セッションが終わった後の夕方とかしかやっていたのに、今それじゃないと枠が足りなくなって、全部の時間でやっているように、そういうふうに変ったんだという話を誰かがしていましたけど、なるべくLaunch and Award は、それぞれのセッションの開始前とか終了後にやるべきじゃないかと。

それから、ライトニングトークも継続すると。ただ、やり方を考えるべきじゃないかとか、あと、ネットワークセッションは継続すると。ただ、数をもう少し絞るべきじゃないかみたいな議論をしていました。

あと、DC session は、もともと DC って二十幾つととてもたくさんあるので、全部が年次会合で、そのセッションをそれぞれ独自に持っているわけではないにしても多過ぎるので、似たようなテーマは統合するとか、そういうことを考えるべきじゃないかという議論がありました。

それから、NRI は、NRI collaborative session の統合を検討するって、ここはちゃんと分かっていないんですけど、NRI のセッションも幾つか似たようなのが、NRI のメインセッションじゃなくて、もっと個別のセッションですかね。それを統合することを検討したいと言っていました。

あと、Day 0 のイベントも継続はするけれども、事前に、MAG に提示しろと言っていました。事務局とホスト国で勝手に決めているんじゃないかみたいな、そういう議論があったんじゃないかと思います。

あとは、ワークショップについては、提案フォーマットをいろいろ、後のワーキンググループ、ワークショップの、プロセスのワーキングでいろいろ議論していることもあって、例えばスピーカー数が多過ぎると。なので、いろいろなたくさんのスピーカーの人がそれしゃべって、結局ディスカッションもなく、意見交換もできずに終わっちゃうのはよくないので、90 分のセッションは 5 名までと、60 分は 4 名までとするということになりました。

それから、フォーマットの分類も、ラウンドテーブルとクラスルームとシアターと、これまでもっとたくさんありましたが、よく覚えていないんですけど、それも、種類についても 3 つに限定するみたいなことを言っていました。

あとは、ワークショップの合体は同じテーマで扱うトピックが近い場合は検討すると。でも、これ毎年、MAG の会議でワークショップの評価をするときにそういう話が出るんですけど、なかなか難しいんじゃないかなと思うんですが、できればそういうことを検討するべきという話が出ていました。

それから、あとは、ワーキングはもう既にストラテジーとマルチリンガルとユースイニシアティブ、それからさっきのプロセス、ワークショップのエバレーションプロセスのワーキングは既に活動しているので、それぞれの活動報告がありました。

それから、あとは、ポリシーネットワークが一応正式に、AI とインターネットフラッグメンテーションと、ミーニングフルアクセスと、それと、サイバーセキュリティーのベストプラクティスフォーラム、この 3 つは正式に、今年も活動を承認するというので、4 月 1 日から活用が開始される。AI は継続でやっているんですけど、承認されました。

そんな感じですか、メインのところは。そんな感じです。

会議中にはそういう話はなかったと、私はリモート参加なので、もしかしたら本会議じゃないところで何か話があったのかもしれないんですけど、ICC BASIS の報告を読んだところ、次回の MAG の対

面会合は 6 月 24 日から、その辺の週にジュネーブでやるということが決まっていると。それから、もう一つ、9 月にニューヨークである Summit of the Future だったかな、そこで GDC の中身が固まるのか、確定されるんじゃないかと思うんですけど、その会議に合わせて、MAG の対面会議をやったらいんじゃないかという案、まだ案だと思うんですけど、案があると聞いています。そんな感じですよ。以上です。

【加藤】 どうも河内さん、ありがとうございます。MAG は結構積極的にいろいろなことを決めて、かつ大きな変革をしようという雰囲気があるということですね、これは。

【河内】 そうですね。去年とかなり違う感じがします。去年までは、もう過去に、要するに、3 年ごとにみんな変わっていくので、3 年で辞めていくんですけど、過去の人そんなに参加していなかったような気がするんですけど、今年は MAG のバーチャルも対面、対面会合は、過去の人対面には来ていないですけど、リモートで参加していますけど、とか、それだけじゃなくて、ワーキンググループとかにもかなり積極的にみんな参加していて、結局、去年のメンツと変わらない人たちが一生懸命いろいろ議論していることも多くて、ポーティングになると、さすがに MAG のメンバーだけだよとかって一生懸命言われて、事務局が MAG メンバーだけのポーティングをどうやって数えているのかよく分からないんですけど、結構みんな活発に、去年より活発に議論している印象があります。

【加藤】 ありがとうございます。御質問、いろいろあるかと思いますが、皆さんいかがでしょうか。西潟課長、お願いします。

【西潟】 河内さん、いろいろと御報告ありがとうございます。

まず、オープンフォーラムとかワークショップって、IGF のほうでそれぞれ明確な定義ってあるんですけどというのが私の質問です。私の理解だと、定義とかあるわけじゃなくて、オープンフォーラムは、例えばユネスコとか OECD とか国際機関は幾つか枠があるという何となくの運用ルールはあるんだけど、これはワークショップです、これはオープンフォーラムです、これはライトニングトークですという、定義があるのであれば教えていただきたいというのが一つ目の質問です。

もう一つは、全然違う質問なんですけど、ポリシーネットワークの AI の話、前回も多分、河内さんのほうから御紹介いただいて、承認されていたという話を聞きました。私のところには全然連絡が来ていないので、まだ事務局が起きていないのかなと思ったんですけど、何か御存知であれば、あと、会合でお聞きになったようなことがあれば共有いただければありがたいと思います。ありがとうございます。以上です。

【河内】 一応、セッションは、私もはっきり言って、ちょっと前まで、ちゃんと全然分かっていなかったんですけど、今、画面を共有します。これ、2023 年版で、2024 年もあるのかもしれないんですけど、Call for Session Proposals なんですけど、これは去年のやつなんですけど、ここに、それぞれのセッションの一応定義というかが書いてあって、ワークショップはいいんですけど、例えばオープンフォーラムは今おっしゃったように、誰がアプライできるかということ、Governments とか Treaty-based international organizations とか、Global organizations from any stakeholder group with

international scope and、要するに、これは国際機関とか政府がやるものがアプライできるものなんですよね。なので、そこがワークショップとかと基本的に違うらしくて、それはみんな MAG の人たちとかも言っていて、だからオープンフォーラムはそこと別だと、枠が幾つまでとか、そういう決めはないんじゃないかと思うんですけど、ここは、一応オーガナイザーはそういう人がやると。ただ、スピーカーにはいろいろな人が出てくると思うので、結局しゃべる人はいろいろな人が出てくるというと、内容をどこまで違いが出せるのかなと。ただ、オーガナイザーは国際機関か政府というのがオープンフォーラムらしいです。

それに対して、Town Halls も何か違いがあるんだって、アダムピークが一生懸命説明していたんです。アダムピークは去年の MAG のときにも、Town Halls、Town Halls とさんざん言っていたので、彼が Town Halls を提案したみたいなことを、昔、提案したみたいなことを言っていたような気がするのでよく分からないんですけど、Town Halls の違いが、いまいちやはり、一生懸命説明していましたけど、みんな、MAG は理解というか納得していなくて、結局 Town Halls はやめるという結論になっています。ここをよく読んだらあれですかね。

あとは、それぞれなので、ただ、昔からやっているけど、セッション数というか提案数が多くなってきて、どんどん昔は端っこのほうとかでやっていたのが、それがいっぱいやりたいという人が増えてきたので、どんどん、結局、一部屋全部ライトニングトークに使ったりとかしていたわけで、そうになると、全然客がないのにやる意味あるのかとか、いろいろなことを言っている人がいましたけども、そんな感じです。お答えになっていますか。

【西潟】 大丈夫です。ありがとうございます。

あと、もう一点お聞きしたいのは、スピーカーの数の話をいただいたと思うんですけど、かつてアプライする側にいた人間からすると、それこそいろいろなステークホルダーのスピーカーを連れてくることが、IGF 側の要求だと理解していた節があって。

【河内】 それ、議論のときも誰か言っていました。

【西潟】 OECD にいたときは、最後はオープンフォーラムに逃げるという手があるのでよかったですけど、普通にワークショップを提案する人たちからすると、どっちなんだよ？という感じがするステートメントだなと思っていて、その辺のところ、今、言いかかっていらっしやったと思うんですけど、MAG の中ではどういう方向感なのか、共有いただければと思います。ありがとうございます。

【河内】 多分、だから確かにそういう議論の中にはあったんです。マルチステークホルダーでいろいろな偏ったセクターじゃなくて、いろいろなセクターの人、プラスいろいろな地域とかジェンダーとかそういうのを考えてスピーカーを考えなきゃいけないから、だから多くなるのもしょうがないんじゃないかという議論もあって、だけど、それにしても、60 分とか 90 分で、向こうの人はしゃべり出すと止まらないので、10 人いるということはあまりないかもしれないけど、六、七人、1 人しゃべりしたら 10 分、15 分しゃべっちゃうので、そうすると、要するに、オーディエンスとの質疑応答とかディスカッションとかができないと、単に向こうから一方的に言いつ放しで終わられる、IGF でのデ

イスカッションの場としての意味がないんじゃないかという議論があって、なので、できるだけ何人、セクターとかマルチステークホルダーを考慮した上で、それぐらいの人数に収めるべきじゃないかという議論で落ち着いたという感じです。

あと、先ほどおっしゃった AI のポリシーネットワークの話は、うちは活動自体というより、最後にまとめてステートメントを出したじゃないですか。それを、リーダーシップパネルだったかな、どこかに提出したいと。ちょうどまとまったのが、IGF、京都の会合の直前とか、それぐらいだったんじゃないですかね。それで正式に出してなくて、それを出したいけど、でも今年の活動はまだ、ポリシーネットワークとしての活動はまだ、正式に承認されてから、4月1日から始まる予定なのに、それを今やっていいのかみたいな議論が、前の会議であって、それは重要なポリシーペーパー、ペーパーだし、別に前にやったものを出すんだからいいんじゃないかとか、だから、そこは特別にいいことにしようみたいな議論が前にあったということ、そういう意味で、活動をやっているということかということです。すいません、ちゃんと説明ができてなくて。

【西潟】 ありがとうございます。いずれ、誰かが来るんじゃないかと。

【河内】 正式に認められたので始まると思います。

【西潟】 ありがとうございます。

【加藤】 どうもありがとうございます。ほかの方、御質問いかがですか。

もしなければ、1点確認までですけど、これ、MAG で決まって、例えば今の Town Halls がなくなるというのも最終決定になるんですかね。

【河内】 なるんじゃないですかね。

【加藤】 そういうことですよ、MAG で。

【河内】 覆せる人がいるとあまり思えないんですけど。

【加藤】 そうですよ。これがどこまでの権限を持っているかって、何となくアバウトな感じがしたので。

【河内】 そうなんですよ。

【加藤】 だけど、MAG がそうやって、事務局がいるところで、そういう結論になったということであれば、それを新たに別の手段で覆すというのは難しいから決まったという感じですかね。

【河内】 そうですね。実は、その議論の中で、実は MAG ってワークショップの評価と選定しかやっていなくて、例えば Town Halls とか、オープンフォーラムとか Day 0 とかネットワーキングとか、要するにワークショップ以外のセッションは全て事務局が評価して選定しているんです。それって、何でワークショップしかやらないんだと、もっと全部自分たちにもやらせろみたいに結構 MAG の人たちが言っていて、でもそういう議論があったときに、いやいや、そう言いながら、事務局もたくさんやるのは大変だとは思いますが、事務局は自分たちの専属でやっているというか、それが仕事でやっ

ているけど、MAG は結構みんな自分で別の仕事をやりながらやっているとこういう人が多いので、それだけやっているわけじゃないので、そんな時間が取れるとは限らなくて、例えば去年だって、100 件のプロポーザルを、一人一人全員が読んで、そのうち 20 件とか 30 件選ぶと、投票した上ですという作業はととても大変で、これも名前出すのがいいかどうか分からないですけど、アダムピークが自分は 100 件できなかつた、70 件しかできなかつたとか言っていましたけど、だから、増やしたらもっと大変になって、MAG のやらなきゃいけないことが増えて、みんな本当にできるのかみたいな議論が結構あって、結局、取りあえずは今までどおり、MAG はワークショップの選定だけだけでも、事前にどういうセッションを Day 0 でやるのかとかそういうのを見せてほしいみたいな結論になったという感じです。

【加藤】 ありがとうございます。いかがですか、ほかの方、御質問。ありませんか。

私からもう 1 点あれですけれども、以前に IGF から出されたスケジュールで、ずっと日程が箱に入って調整、予定されていたのがあったと思うんですが、それによると、Call for sessions というのが、今年の 3 月 15 日から 4 月 30 日の予定なんです。

まだこれ、これはこのまま続いているので、もうあと数日で Call for sessions になるということは、特に大きな変化はないと思っていいわけですね。

【河内】 だと思います。なので、一番関係するのは、ワークショッププロセスの、要するに、評価する。だからどういうふうに提案を出してくださいというフォーマットも、この間、かなり議論したので、細かい詳細な点を議論したので、そこが確定すればもう出せると思うので、多分この間、ほぼほぼ議論したと思うので、多分 15 日には予定どおり出せると思います。開始できると思います。

【加藤】 今、言われた点は、例えばプライマリーリージョナルグループを書くことというようなことが議論されたというような、そういう要件みたいなのも、あと審査の基準みたいなものも、もう 1 回明確にして出されるというイメージですか。

【河内】 そうです。さっきの例えばスピーカーは 90 分の場合は 5 人までとか、そういうのも。

【加藤】 入れて、分かりました。ありがとうございます。

じゃあ、それを見て、もう 1 週間以内にそういうのが出てくるだろうから、日本からもまた改めて、セッションの応募をすべきですというのを、いろいろな方に声をかけると、そういうアクションがあと数日で始まるだろうということですね。

【河内】 そうですね。

【加藤】 分かりました。

いかがでしょうか、皆さんほかに。ありますでしょうか。もしなければ、取りあえずこれで、MAG の御報告、深夜、日本から本当に河内さんお疲れさまでした。ありがとうございました。ということで、引き続き、もし後で御質問があれば、河内さんに質問していただくということで、一旦こ

こで打ち切って、あと、もう一つはアジェンダ項目として私が提案させていただいたんですが、もし、御了承いただければ、2月末に、WSIS+20 に関して、意見書というか、質問に答える作業があったと思うんですが、これは私の知っている限りでは、河内さんのところで、CFIEC で御提案をされたということなんですが、これ山崎さん、JPNIC さんも何かお出しになられたんですか。前、準備しているとは伺った記憶があるんですが。

【山崎】 出しました。2月29日締切りというのを信じて頑張ってお出しました。今見たら、3月末まで出すことが可能と。

【加藤】 どんどん変わっていますね。

【河内】 そうですね。3月になっていますね。いや、出したやつを今、ネットでそれを見られるんですけど、エディットできるんですよ。あれまだ何でエディットできるんだろうと思ったら、また、伸びたんですね、これ。

【加藤】 もともとは1月末でしたからね、これ。もし簡単に、JPNIC さん、CFIEC さん、ポイントだけで結構ですけども、日本として、今後の IGF に対して、こんなふうを考えているという御意見を出されたと思うんですが、御披露いただければと思うんですが、いかがでしょうか。

【山崎】 JPNIC でも出しましたので、ごく簡単に説明しますが、IGF をどう考えているというような設問にはなっていないで、WSIS が 20 年たって、WSIS で設定されたゴールがどれぐらい実現しているか書けというたぐいの質問が多かったんですが、例えば、ネットへのアクセスが、例えば先進国では、9割とかかなり多いと。ただし、途上国ではまだかなりそれほどまでっていない。あと、先進国でも、グループによってほとんどみんな使っているセクションと、そうでないセクションがあるとか、いろいろそういうのがありますので、そういうギャップは埋めたほうがいいんじゃないか的なことは書いたと思います。

JPNIC が書いたメインは、インターネットガバナンスに関してマルチステークホルダーで決めるべきと、そういうことを強調したということになります。

私から以上です。

【加藤】 ありがとうございます。じゃあ、河内さんいかがですか。河内さんもあれでしょうし、今拝見していたら、上村先生も今、御出席のようで、もし上村先生から後で補足いただくことがあれば、上村先生からはCFIECは研究会として出したと理解していますので、補足等あればお願いしますが、まず、河内さんお願いできますか。

【河内】 山崎さん、画面共有させていただいてもいいですか。これ今、加藤さんがおっしゃいましたが、一応、うちの中にインターネットガバナンスの在り方に関する研究会、略して IG 研究会とありますが、上村先生に主査をお願いしまして、そういう研究会を立ち上げておまして、その研究会としての回答案として出しました。

これ事務局が書いたものを皆さんに御意見いただいたりしたものの最終版なんですけども、一応インターネットガバナンスで 20 年近くやってきて、いろいろな技術の進展とかグローバルな経済社会情勢とか、いろいろなものが変わっていく中で、問題も、そのときの課題というのも結構、変遷して変わってきていると。あるとき重要だったテーマは、完全になくならないまでも、やがて薄れていって、もっと違う、また課題が重要になってきたりとか、テーマとかを見ていくと、20 年間どんなテーマだったとかというのを見ていくと分かる、そういうのが結構、明確に分かりますよねという話を研究会の中でもして、なので、20 年前から変わらず重要なテーマ、デジタルデバイト的な課題とかもある一方で、AI とかが急速に普及して、それによって出てくる新たな課題というのもあるので、そのとき、その時々で重要なテーマを議論していくことが重要じゃないかということと、それからグローバルなレベルだけではなくて、国や地域レベル、それからユースレベルにおいてもインターネットガバナンスの原則とかが貫かれるべきじゃないかということで、とにかく IGF のマルチステークホルダープロセスという成果がどれだけあったかということ強調して、今後も重要になるということで継続していくべきということを主張するということ、まとめるとそういうことを言っています。

一応それぞれの質問についても、元のこれ 7 番って、今のやつは 1 番とかになっていますけど、それぞれの設問と、その訳と、それから回答案の日本語、それから英訳も、ここに、研究会の委員の方と共有して、いろいろ意見をいただいたりとか、修正したりとかしたものをここに載せていますけれども、簡単に言うと、例えば最初のほうが、ここの最初の部分は、20 年でつながる人は増えたけど、それでもまだ全員につながってなくて 27 億人につながっていないから、ただ、デジタルに関わる技術とかアプリケーションも発展したけど、サイバー犯罪は、それも増えたりしているので、生成 AI の問題も出てきていると。なので、WSIS のジュネーブの原則宣言でうたわれている情報社会のビジョンに向けて、かなり進展しているとは言えるものの、一方で新たな課題も増えているので、まだまだ議論する場というのは重要だから、そういう意味で、IGF の果たす役割は終わっていないということ言っています。

それから、ここは WSIS の成果の実施は、どのように貢献したかということですけど、ここはマルチステークホルダーで全ての関係者が議論したことによって、全ての人たちが WSIS のビジョンの実現のために、あるべき政策とか技術について議論をできるという場所はほかにないということで、貴重な場であると言っています。

それから、あとは、どのような進展があったかというの、例えばワークショップの提案数で、2021 年は 203 件、2022 年は 260 件で、この間は 400 件と年々大きく増加しているというのは明らかに関心が高まっていると。それから、あと IGF の京都に参加した、現地で 6,279 人と、リモート 3,000 人というのは、これは 18 年間で最も多い数、しかもその 3 分の 2 以上が初めての参加者だったということで、新たに関心を持っている人がどんどん増えているというのが分かるということで成果があったんじゃないかと。

あと、もう一つは、国、地域のレベルとかユースといったステークホルダーグループのレベルにおいても、インターネットガバナンスに関するイニシアチブが設けられて、その数は 150 を超えるほどになっていると。そういう成果があったんじゃないかということを行っています。

あと、課題は、IGF の原則が、世界中のどの国や地域のどのレベルにおいても、同じように尊重されなければならないと、そういう取組を、もう少し推進すべきじゃないかと。また、もう一つは IGF でいろいろ出た意見を、その次のステップにつなげるルートを、もう少し具体的なルートの検討すべきじゃないかという意見を出しています。

ここは、どのようなアプローチが効果的というのは、マルチステークホルダープロセスが重要と書いています。そんな感じですかね。

もう一つ、これはありきたりのことを言っているんですけど、インフラの発展とかネットワークの速度の向上とか、コロナ禍でのリモートワークとかクラウドシステム活用のアプリケーションの進展とかいうことによって、途上国とか障害者のアクセスが大きく向上したと。あと、クラウドコンピューティングは、アプリケーションやリソースなど、安価に手軽にシェアしたり、コロナなどの感染症が拡大しても遠隔で協同作業や集団授業ができたりとかして、より多くの人によりよい生活のために恩恵を受けていると。生成 AI は、人々の生活において様々な利便性を提供して、コストや時間の節約などに貢献できているということを行っています。要するに、技術や ICT がどんなふうに影響を与えたかということを行っています。

それから、ここですけども、WSIS の成果を達成して、情報社会の進展を目指す関係者にとって、現在、新たな動向も考慮した上で何を優先すべきなのか。ここで言っているのは包摂的、要するにグローバルサウスの問題とか、先進国だけではなくて人間中心で、先進国とグローバルサウスと、全てを考える包摂的な情報社会の発展が重要ということと、それから、最後のところ、技術そのもののインパクトではなくて、技術が持つインパクトの背景にある不公平とか不平等の解消を目指すこと、それから、その結果としてこれらの不平等が解消されることだけではなくて、これらの解消を目指すプロセスにおける、不公正や不平等を解消することが必要。そのためにも、マルチステークホルダー型の対応が重要ということを行っています。

あとは、SDGs にどう、幾つか例を挙げたりとかしています。すいません、この辺はあまりあれなので、省略します。そんな感じですけども、よろしいでしょうか。

【加藤】 ありがとうございます。上村先生、もし、まだおいでになって、コメントいただけることがあれば、いかがでしょうか。退席されましたか。いらっしゃいますね。上村先生、もしコメントいただければと思いますが、いかがでしょうか。声が聞こえないですけど、上村先生。

【上村】 すみません、手元のマイクを忘れていました。上村です。

先ほど御紹介いただきましたように、CFIEC の研究会に加えていただいています。こちらでは、初めてお目にかかる方もいらっしゃるかもしれません。

研究会の成果の一つというのは若干早いですけれども、なるようにと思って、WSIS+20 の調査に回答してみようとしたものです。

それで、全体像は、先ほど河内さんが御説明になったとおりですけど、私が思ったのは 4 つぐらい、5 つぐらいありまして、一つは、IGF というのを維持するという主張は幾らあってもいいだろうと思っていますので、繰り返しになっているかもしれませんが、繰り返しというのは、ほかの組織も同じこと言っているだろうと思いますけれども、IGF は引き続き、続けるべきだということを目標にする。

それからもう一つ、これも先ほど、河内さんの話の中にあっただよように、IGF の原則というのはオープンで、ボトムアップで、マルチステークホルダーで、ノンコマーシャル、ごめんなさい、原則は 5 つあったような気がします。いずれにしても、そういった IGF の原則が貫徹される。それが国レベル、地域レベル、ステークホルダーベースの取組においても、貫徹されるべきであるということを入れました。この背景について、実は CFIEC の方とフランクにディスカッションしていないんですけども、私がある背景で考えているのは、今度の IGF はサウジアラビアという国で開催されるわけです。

ちょっと調べてみると、サウジアラビアは、国別の IGF の取組がない国なんです。なので、そういう国で IGF が開かれるというのは、その国の今後の MRI の取組を盛り上げる上では、価値のあることかもしれないけれども、そうであるならば、前借りをしている状態なので、そこはしっかり貫徹されるべきという主張があったほうがいいと思って、それを入れてみました。

それから、ユースについても、これが、日本の若者が国連の場合に日本を代表して出るような、そういったパスがあったらいいなと思ったということで、そんなことにつながる、つながらないかなと思って、ネットユースの取組をもっと後押ししようということを行っています。

それから、もう一つ、今、AI という特定の技術が、特定といっても相当大きな影響を持つ技術でありますけれども、注目されています。それで、うっかりすると、IGF の場がデジタル技術フォーラムのようになってしまいかねない、そう考えている人は少ないかもしれませんが、誤解されるようなことがないように、IGF というのは、開発とか社会的なインパクトとか、そういったものを、仮にインターネットガバナンスだけを扱わないにしても、技術についてのコンセンサスを探るための場であるべきであって、開発だとか人材育成とか、そういった国連的な価値に直結するようなテーマを扱うべきであると思って、そういうことを入れていただきました。

それから、SDGs 絡みについても同じで、これは IGF を維持するという口実につなげるには、技術を準技術的な観点からある場にするべきではないとはいっても、そういった技術の場を扱う、そして、それを国連的な価値観の下で扱う場としては、今の IGF しかない。SDGs に関するステートメントを追加していただいたという感じで、加藤さんが席を離れていらっしゃるようですが、私のサマリーは、大体こんなところです。議長がいらっしゃるとうとうがないので、もしこの内容について、河内さんから、そんなの聞いていませんでしたということがあれば、おわびしますし、それ以外の方も、もし何か疑問に思ったことなどあれば、お答えできる範囲でお答えしようと思います。

特にそういうのがなければ、私からは以上という感じになります。

【河内】 加藤さん、いらっしゃらないみたいなので、次へ行っちゃっても大丈夫ですか。山崎さんが何か手を挙げていらっしゃいますね。

【山崎】 加藤さん、事前にちらっと伺ったんですけど、一瞬、席を外さなければいけない可能性があるって伺っていたので、その間は、我々で何とか切り盛りしなきゃいけなさそうです。

それで、もう 1 点、終わってからなんですけども、先週、3 月 8 日締切りで、グローバルデジタルコンパクトの意見募集がありまして、それにも提出しました。JPNIC から。内容はすごく簡単というか、2 点だけですので、口頭で共有しますけれども、マルチステークホルダーで、インターネットガバナンスのことについて、グローバルデジタルコンパクト自身についても、マルチステークホルダーを尊重して検討すべきであるということが 1 点と、もう 1 点は、国連が書いたものの中には、ステークホルダーとして政府、IGF のほかに、民間プライベートセクター、それとシビルソサエティーぐらいしか書いていないものが結構ありまして、技術コミュニティという用語が抜け落ちているんです。

ちなみに、技術コミュニティというのは、例えばドメインメールレジストリであったり、IP アドレスレジストリだったり、ルートネームサーバーの運用者だったりしますけれども、こういった我々、JPNIC はその一員になるんですけれども、技術コミュニティも尊重せよということ、その 2 点を書かせていただきました。

私からは以上です。

【加藤】 ありがとうございます。上村先生、山崎さんありがとうございます。

御質問、御意見ございますか。さらに、WSIS+20 のコメントに関して何か、我々もこういうことを言ったとか、そういうものがあれば、ほかにも御披露いただければと思いますが、いかがでしょうか。

もしなければ、ここで、今、前村さんから書き込みを入れていただいたんですが、その延長で……。

【山崎】 西潟さんから手が挙がっています。

【加藤】 失礼しました。西潟課長、お願いします。

【西潟】 すいません、山崎さんも、河内さんも、上村先生もいろいろありがとうございます。

1 個だけ教えていただきたいんですけども、WSIS+20 は別なんですけど、GDC の中で、インターネットガバナンスのテクニカルコミュニティとおっしゃる部分の人たちの話って、CFIEC さんのこの前のセミナーをお聞きしていて、センターフォーカスじゃないという理解です。私はニュートラルで、政府からもっとそういうことも言ってほしいということであれば、喜んでやりますけど、JPNIC さんとかからするとどうなのか、おっしゃっていただければ。今、山崎さんがおっしゃったような話、もちろん、そもそもマルチステークホルダーの中で落ちているじゃないかという話で、インターネットのテクニカルコミュニティに限らず、いわゆるアカデミアが抜けているじゃないかとか、エンジニ

アが抜けているじゃないかという話は私も認識しているんだけど、そういったところのいわゆる、例えば OECD でいう ITAC、Internet Technical Advisory Committee というのがあるんですけど、そういうような人たちの話を GDC でも出されるというような感じなのか確認させてください。もう一つは、CFIEC でのセミナーの話からすると、それってピントとして合っていらっしゃるのかしら、それでもおっしゃるといのは当然だと思うんだけど、そもそもインターネットガバナンスってそんなに、GDC のセンターじゃないよねというのが私の問題意識の中であって、片や WSIS+20 はインターネットの話だと思うし、上村さんが別途 IGF でおっしゃっていたように、IGF がテックフォーラムになっても困る、みたいなどころとの関連は、政府としてどういうふうに捉えたらいいのか、JPNIC さんなり、CFIEC さんからご示唆頂けるとありがたいんですけど、いかがでしょうか。

【加藤】 まず、前村さんの手が拳がったので、前村さんから答えていただくのがいいのかな。

【前村】 そうですね。山崎から答えてもらってもよかったんですけど、失礼します。テクニカルコミュニティとしては、GDC で、WSIS、チュニスアジェンダにも、きちんと技術コミュニティと書き込まれているのに、それが欠落しているということは非常に大きな問題だと思っているので、これはもう言わなくちゃいけないと思っています。

一方で、政府間組織が、それぞれの主権国家のデジタル政策として進めるのは大いに結構で、それに関して、GDC というのは、そもそも政府がどうするかという話を話しているんだというのは承知はしているわけですね。なんだけど、チュニスアジェンダにも書いてあることを何で落としたのということで、フォーカスをしているというような感じで、お考えいただければいいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。西潟さん、それでよろしいでしょうか。

【西潟】 ありがとうございます。大変参考になります。

【加藤】 ありがとうございます。思った以上に活発な議論になってよかったなと思っているんですが、皆さんほかに御質問、御意見ございますか、この件。

WSIS+20 に向けて、今後、世界中でもこういう議論が進むと思いますので、ぜひ日本からもこういう発信をいろいろしていただくといい案件かなと思います。

もし、この件ほかになれば、先ほど書き込みしていただいたとおり、ここで NETmundial のことについて御紹介いただけるということで、前村さん、よろしいでしょうか。

【前村】 恐れ入ります。ひとしきりお時間をいただいて、御紹介しようと思います。というのも、進展があったということでもありますし、4月29日、30日ということで、きちんと通るのは今からということになりますので、御紹介しようと思います。

私、NETmundial+10、NETmundial のときに、Executive Multistakeholder Committee のところで、委員会で検討したという側なんです。それで、ちなみに言うと、今回は EMC をつくらずに、High Level Executive Committee だけでやるということになっていて、メンツが Renata というのは、これブラジルの市民社会の人を CHAIR に上げていますと。Co-Chairs としては、実力者が押しも押

されない実力者が並んでいます。NETmundial Advisory Group というのは、私がここに、何と末席を汚すというか、アルファベットの A なので私が最初に書いてあるんですけども、前回の NETmundial を経験した人たちというのがここに並んでいるということです。

あとは、Government、Private Sector、Civil Society、Academia、Technical Community という感じになっています。それで Jordan Carter と Silvia Cadena というのは AP 地域で一緒にやっている人たちなので、この辺の人たちと組んでやっているという意識でやっております。

それで、今日、これ例によってというのか、NETmundial+10 も、2014 年の NETmundial と同じように、ドキュメントをドラフトして、それをたたくということをやっていくんですけども、今、Expression of Interest というのが出てきていまして、これは何の関心表明かということ、参加したいという関心表明をしてくださいということなんです。事情を申し上げますと、サンパウロで、4月29日・30日に、グラウンドハイアットサンパウロでやるんですけど、これ10年前と同じ場所なんですけど、会場がそんな大きくなくて、200人ぐらいなので、全員に来てもらえるとは限らないので、ある程度、オンサイトで参加する人のモデレーションをするという言い方をしておりますけども、調整していかなきゃいけないというところがかかっているということで、参加希望をここに書くということです。

オンサイト参加がかなわない場合にも、オンラインで参加していただけるので、ぜひともそちらも御活用くださいという意味合いであります。ということで、それを御紹介するということです。

NETmundial+10は何になるんだよと、よく言われて、私とて、これを主軸になって調整しようというよりは、何か起こるんだったらちゃんと対応しなきゃいけないよねというような感じで委員会に入ることにしたはしたんですけど、実際には、NETmundial+10、先ほど申したように、皆さんも御存じのような方々もたくさんいらっしゃるの、信頼のおけるマルチステークホルダーコミュニティの論客がたくさんいらっしゃる、とても熱心に意味があるものになりたいということで取り組んでいますということで、先ほども WSIS+20 の話が出てきましたけども、未来サミットというのもありますし、ステップストーンがたくさんあるところです。なので、これに対して、マルチステークホルダーでものを考えるという場所が一つ、ステップストーンを一つ増やすということには、非常に大きな意味があるんだろうなという感じの捉え方を今しているところです。

それで、以上で、NETmundial+10 の御説明は以上で、そのうちドラフトが出てきて、ドラフティングプロセスも始まると、コンサルテーションもやると思いますので、そういうプロセスが始まっていくんですけども、先日、先週まで、私は ICANN 会議でプエルトリコにいまして、WSIS+20 の辺りを、とても上手に追っているのが、Government & IGO Engagement というチームです。GE と言っていますけども、GE アップデートと別称は言うんですけども、Geopolitical, Legislative, and Regulatory Developments Update という、このセッションのスライド、資料も含めて非常にまとまっています、この辺の業界のことをぱっと分かるためには最高のものになっているので、ぜひともこれは御参考にさせていただきたいと思います。

それで、その中で出てきたもので一つあったのがこれなんですけども、今、写真撮っていただいて、QRコードを覚えておくと簡単かもしれないんですけども、ICANNのGEが主軸になって、WSIS+20アウトリーチネットワークというのを、メーリングリストなんですけども、つくりました。こちらのほう、皆さんも参加できまして、そうすると資料が手に取れるということになりますので、どうぞよろしくをお願いします。これを打つと、コンフリエンスのページにいて、ここからのアップマネジメントフォームを押すとメーリングリストに入っていくということができるようになっているということです。

それで、ICANNのGEチームの宣伝をするというのもあれなんですけども、ICANN、Government、GEとか書いてグーグルしていただくと、こういうページがあって、定期的にドキュメントも出ていますので、こちらのほうを参照になっていただければと思います。

私からは以上です。

【加藤】 ありがとうございます。今の前村さんの御説明に御質問等ございますでしょうか。大変有意義な内容で、これって前村さん、オンライン参加も可能という場合は、オンラインで発言もできるというイメージなんですか。

【前村】 発言できるはずですよ。これ、10年前も4ステークホルダーで、Queueがあって、ステークホルダー、変わり打ちで、1、2、3、4、リモートという感じで順繰りに回していったという順序をしておいたので、同じようなことやと思います。

【加藤】 なるほど。オンラインの級で順番に行って、それは実際しゃべるのであって、メールで書き込むということではなくて、実際しゃべることができるよ。

【前村】 しゃべるということです。メールでパブコメというのでもすると思います。

【加藤】 ありがとうございます。ぜひ、2日間ですよ、基本。

【前村】 2日間です。

【加藤】 ありがとうございます。御質問、よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

それじゃあ、元のアジェンダに戻らせていただいて、次は、活発化会議の法人化のお話だったかと思いますが、今チームの今後ということですよ。全部、御報告しているとおりに、このチームの中から有志で準備委員会をつくっていただいて、準備委員会のほうでいろいろミーティングをやっております。ここに書いていただいたとおりに、内田鮫島法律事務所の根岸弁護士にお手伝いいただいて、法人登記に必要な定款のドラフト、それと関連するいろいろな書類をつくっていただいて、次回は、あさって、3月13日に準備委員会のミーティングをやる予定です。

今日ここにお集まりの活発化委員の皆さん方の、もう多分半分ぐらいはこの委員会に入っていると思いますから、登録していただいているのは13人ぐらいだったと思います。ということで、まだ、今日は御参加じゃないかもしれないですけども、根岸先生いらっしゃいますか。この会

議に遅れてでも参加できればして、御挨拶だけいただくようなお話があったんですが、参加されていないですか。もし参加されれば、御紹介しますけれども、先生のほうで、会の皆さんといろいろお話をさせていただいて、準備を進めていただいております。

基本的には、今まで何度も御覧いただいて、議論していただいた法人化に向けてのたたき台というものの中で、自由で、オープンで、みんなが参加できる、この会議を主体として、いろいろなそれを支える仕組みを検討していただいているということです。

たたき台の紙に書いていただいたので、基本的に御了承いただいていると思いますが、その内容について、法律の技術的な部分は根岸先生にお任せするというので、主なところは準備委員会に任せたいと思っていますけれども、会の名前、それについては、前回さらに検討ということにお話ししましたけれども、今日、私、先ほどメールに書かせていただいたとおり、準備委員会の皆様も、体制が、日本語では日本インターネットガバナンス協議会、英文名は、Japan Internet Governance Dialogue というのがいいんじゃないかというお話が多かったと思います。それ以外、これがいいというのは、特に今のところ伺っておりませんので、できましたら、今日、今、山崎さんに書いていただいている議事録を、ラストコールということで、今から7日間で、特に異議がなければ、この名前で検討させていただきたいと思います。その点、よろしいでしょうか。皆さん、何か御意見があれば、今ここで御発言させていただきたいと思いますが、英文は dialogue ですが、正式には Japan Internet Governance Dialogue です。一応定款の中に、定款の必要記載事項ではないのですが、英文も入れたほうが正確を期す上でいいんじゃないかということで、日本文名は、正式の法人の名前ですが、英文はあくまで参考として、英文も定款中に記載するという方向で検討していただいております。もし御意見があれば、言葉で今言っていただくなり、7日間の間に、こっちのほうがいいんじゃないかというのであれば、言っていただければと思います。

それで、基本はたたき台に書いた仕組みなわけですが、それも含めて、いろいろ、まだコメントいただければと思いますが、基本は、今、活発化チームもそうですし、去年は、インターネットガバナンスに関するタスクフォースというの、我々も参加させていただいてやったわけですが、今やっていることを継続するのが基本だと思います。

この会を法人化して、法人が何をやるかですが、基本は、今日もやったとおり、いろいろなインターネットガバナンスの問題に関して情報交換をする。そこで、みんなが自由に参加して自由に意見を述べると、その意見は全て原則として公開すると。みんなの前で、いろいろな意見を述べ合って、そこでコンセンサスを得ていくことが一つの目標であるということで、この法人の主要な目的は、みんなが集まって議論ができる、情報交換ができる場をつくるということだと思っています。

今回、法人化に当たって、どういう形をつくるかですが、新たにすごく新しい立派な組織をつくるというよりは、今、こうやって活動していることを、参加している人たちが、自分たちで一緒につくり上げていくと、そういう場をつくる。ただ、それが客観的にも、いろいろな政府からの御資本をいただくとか、そういうためにも法人という名前でも新たに形は整えますけれども、基本は今、

我々が参加している人たちが、自分たちで互いに貢献し合いながら、自分たちの手でつくっていき、ということが基本なんじゃないかと、いろいろな方々と議論しながら、考え、進めさせていただいております。

ということで、準備委員会のほうは肅々と必要な、法的な書類を根岸先生の下につくらせていただいておりますので、自分もぜひそういうことに参加したいという方は、常にオープンですので、準備委員会に声をかけていただければと思います。声の掛け方は、活発化チームのメーリングリストに自分も参加しますと言っただけであれば、次からいつでも参加していただくということで、いろいろと細かい点もあるので、時間の限られた中で、できるだけ早く進めるということでやらせていただいております。

以上ですけれども、準備委員会に参加されている方を含めて、何か追加のコメントとかございますでしょうか。大丈夫ですか。

【前村】 前村ですけども、よろしいですか。

【加藤】 前村さん、お願いします。

【前村】 名前を決める段ということで、これも前から、なかなか妙案がないよねみたいなことを申し上げていて、私もネーミングセンス、まあまああるほうなんですけど、本件に関しては、なかなかそれが稼働していないなと思っているんですけど、ここで決めて、その名前になってしまうというのがちょっと厳しいのかなと思っただけで、というのは、社団なりを設立するならば、その設立主体が考えることなんだろうなと思っただけで、そこそこが、必ずしもきちんと合っているのかというのはよく分からなくて、決まっちゃったものをつけなきゃいけないみたいなものってやりにくいんじゃないのかなと素朴な感覚がありましたということを表明させていただきます。

【加藤】 分かりました。もし、ということであれば、7日間のラストコールを伸ばすという意味ですか、それは。今、そうじゃなくて、ここで決めたいけれども、後で発起人になっている方が、別の名前に変えるということなんですか。

【前村】 変えるというんですかね。そうですね。

【加藤】 拘束されるかどうかは別ですけど、そういう名前だったら発起人にならないという方がいれば、発起人として今、検討されている方は、ぜひ名前ぐらいは、やるならそれでいいかなというぐらいのことは決めていただけると。

【前村】 全くおっしゃるとおりです。立石さんの手が。

【加藤】 そうですね。立石さん、お願いします。

【立石】 今、前村さんが言ったのも何となく分かるんですけど、設立主体がどうなのかなというのと、そもそも社団というのは、今ここで話をしている人たちが話をする場をつくるだけというのと、言い方が変ですけど、そういう場だと僕は認識しているので、そうすると、多分ないとは思いますが、

全然違う、万が一、設立主体が全く違う名前を、違うというか、それは移行したのという思いと違う名前だと、それはそれで問題かなという気がするので、設立主体となるつもりがあるところは、今、加藤さんおっしゃったように、案を出して、もう 1 回なのか分からないですけど、もんだほうがいいのかという気がしました。以上です。

【加藤】 この話は、そういう意味でいうと、このグループでは 1 年半前から進めてきているので、ぜひ早めに進めていきたいというのが皆さんのお気持ちかなと思いますので、よろしくお願いします。

繰り返しになりますけれども、活発化チームで、こうやって今日も情報交換、非常に有意義な情報交換があったと思いますけれども、こういうことをやるのが第 1 の目的の場ですから、それを、今の形を我々の手で維持しながら継続するというのが基本的な考えかなと思います。

あと、御質問とかございますでしょうか。特に、この場ではございませんか。

それでは、根津さん、お願いします。

【根津】 すみません、こんにちは。JPNIC の根津です。JPNIC の根津ですと言いましたけれど、所属組織としてということじゃなくて、すいません、私のほうが素朴にということと、ありがとうございます。

今、ここでいろいろ情報交換しながら、こういったプロセスを進めてきたという話がありました。それで、私のほうも準備委員会というところには出ていないというところがあるんですけど、差し支えない範囲で、どんなふうに進んでいるのかとか、何がどこまで決まってきたのかとか、そういったところもシェアしていただけたらいいのかなと思いましたので、お願いを、可能な範囲でということと、ぜひお願いできればと思います。よろしくお願いします。

【加藤】 ありがとうございます。それじゃ、私からも少し付け加えてよろしいですか。これ、かなりもう今までもあれですけど、たたき台という紙があって、これも御披露しているんですけども、どうしますか。山崎さん、私のほうで共有を、すぐその紙が出てくるかどうかあれですか。

【山崎】 私ども、こっちで探しましょうか。たたき台は前々回ぐらいですか。

【加藤】 そうですね。それで、個々でも、そこへのコミットメントの書き込みというのがあったので。

【山崎】 ありました。

【加藤】 そうですね、ありがとうございます。1 月 22 日と書いてあるのがそうですね。これが基本で、基本の考え方として、今まで活発化会議を含めて、日本のインターネットのいろいろな活動というのは、任意団体としてそれぞれ自由にやってきたというところがあるけれども、京都でみんなが集まって、非常に IGF の話で盛り上がって、ぜひ話し合いの場を継続するために、恒久的な組織をつくるということで、ただ、その組織というのは、今もそうですけれども、みんなが自由に参加できて、発言できて、内容を公開するという、これが IGF の基本方針なので、それに従うということで、今ま

で過去、いろいろなグループが活動してきた部分がありますけれども、それらを統合する形で法人化しましょうということによってやってきました。

あと、ここに書いてあるとおりですけれども、根津さん、もしよろしければ、またこれを見ていただいて、場合によっては、私もそうですし、準備委員会の方からも御説明いただきたいと思います。その後、ずっと基本の考え方を実現するために、まず、法人化するためには、法人のための理事会、並びに、法人の社員というものを形式的ですけれどもつくらなきゃいけない。理事会には代表理事という方がいて、その方がこの法人の管理運営に関する基本的なことを決めます。ただ、会議自身は、山崎さんずっとスクロールしていただくとありがたいんですけども、その前に、NRI に対してこの団体が、日本の NRI として、改めて登録を確認しますということになっています。

組織として、今申し上げたとおり、もう少し下に行っていたら、ここにありますとおり、下のほうにありますとおり、先ほどから出ている政府関係、市民社会、技術者コミュニティー、民間企業、プライベートセクター、それからアカデミック、5 つのグループが、マルチステークホルダーとしてバランスを取りながらやっていくという基本精神でやりましょうということで、以下、どういう組織をつくるかというのは、本会議以下、書いてあります。ここの本会議と言っているのが、今の活発化チームで、こうやってみんなが自由に情報交換しているものを意識したところで、その中に、さらに事務局、これは実際、山崎さんを中心として、JPNIC さん、それから JAIPA さん、そういうところがやっていたら事務局という名前にしますということで、あと、委員会、部会というのは、例えば、1年に1回、今までイベントとして、日本 IGF の報告会とか、日本 IGF 会議というのをやったわけですが、そういうときに準備委員会というのをつくりましたけど、そういうような委員会を想定しています。

それから、部会というのは今後、1週ごとに、例えば先ほどから出ている技術者コミュニティーがこんなことを、意見を持っているので、意見を表明したいとかそういうことがあれば、そういうことを1週ごとに部会として議論していただくということです。

それから、本会議に加えて、その下に行ってくださいと、評議員会、これは本会議でこういうことは問題じゃないかとか、バランスが欠けた議論になっているんじゃないかというようなことで、活動に問題があるという場合のお目付役の役割もありますけれども、評議員会というのをつくっていただく。さらには、この活動を対外的にもいろいろと支援していただくという、そのための顔にもなっていたらというような面もあります。

それから、6 と書いてあるところにありますとおり、社員と社員総会、これは、法人とするためには一般社団法人の設立のためには、社員と社員総会という法的な言葉が必要なんですけれども、それをどういうふうにつくり、かつ、その中で理事会というものをつくるということが必要なんですけれども、その理事会というのは、基本的には先ほどの本会議に対する支援で、いろいろな管理運営に関して、基本的な問題について、理事会の承認を得るという形を取ると、そういう3つの大きな組織を組み合わせて、全体の法人活動を維持すると、こういう仕組みなんです。それぞれをどういう法律の

文書に落とし込むかというところで、先ほどの根岸先生にお願いをして、根岸先生が今、つくっていただいて、準備委員会で検討しているということでございます。

さらに、もし詳しい内容を御検討いただくのであれば、ぜひ準備会にも入っていただければということを重ねてお願い申し上げます。そんなことで、根津さん、今はよろしいでしょうか。

【根津】 すみません、私が周回遅れなことを聞いてしまって。

【加藤】 いえいえ、大丈夫です。

【根津】 皆様は既に御存じのことかもしれないけど、本当に、非常に御説明いただいて、分かりました。ありがとうございます。いろいろなところの立てつけというところを今、検討していただいて、そこをちゃんと落としていくところにいるということは非常によく分かりました。

たまたま私、JPNIC というところにおいて、インターネットのレジストリということなんですけれども、今、世界的には RIR と言われている、地域のインターネットレジストリとか、結構運営が怪しくなるというか、怪しい人たちがやってきて、牛耳ったりとかしようとするとか、そういったところもあったりしまして、そこと、このインターネットガバナンスというところが直接的に結びつくとか結びつかないとか、そのところはいろいろあるかなと思うんですけれども、そういった、みんなが本当に対話できるという場は本当に貴重だと思いますし、この精神というのは本当に重要だなと思っていて、そこを実現しつつ、この組織のガバナンスというんですか、そういうのがどんなふうによく回るのかというのは結構チャレンジがあるかなと思っていて、私のほうも、そういったところ、すごく興味もありまして、必要なところで参加させてもらいたいなと思っていましたので、ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

【根津】 すいません。皆さんのお時間を使って、ありがとうございます。

【加藤】 ぜひ引き続き、よろしくお願いします。ほか、いかがでしょうか、皆さん。御質問とか御意見、これは特にございませんか。

今、NRI というところにも触れたので、もし山崎さん、山崎さんから送っていただいた NRI の基本文書と申しますか、パンフレットの日本語訳のお話を、一言だけ御報告してよろしいでしょうか。

これを 1 回、今の表示を消していただいて、山崎さんから案のほうに送っていただいたのを、もしお手持ちであれば出していただくのであれば、一度、メーリングリストにも山崎さんから御紹介いただいたんですけれども、実は、今ここで今度の法人化もその一つなわけですけれども、各国の NRI を紹介するためのパンフレットと申しますか、IGF がつくっている説明文があるんですけれども、その文書をいろいろな国で今、翻訳をしているんです。山崎さんも、さっきの河内さんも NRI のコーディネーターとして入っていただいているので、そこで、各国、手を挙げていただければ翻訳をしてもらいたいという要請があって、それに対して、英語訳と申しますか、英語の原文を基に、CFIEC のチームで日本語をつくらせていただきました。山崎さんから、それを非常にきれいな文章に、フォントをい

ろいろと変えていただいたりとかして送っていただいて、今、IGF のほうで、これが NRI を説明する文書であるというものの日本語版が準備できた状況です。

どういうタイミングで掲示されるのか、もう出ているのか、私はまだ確認していないんですけども、今 10 か国以上、手を挙げていますので、その中に日本も入れたという意味で、少しずつこういう NRI 活動も京都以降、日本でもやっているよということが世界に分かってもらえるかなと思います。

山崎さん、すぐ出てこないですか。

【山崎】 やっと出てきたんですが、ウェブだけですので、本体はワードですので。

【加藤】 ワードの文章でも、まず、いいかもしれないですけど。そうか、出たものは、そうですね。これがいろいろな国で……。

【山崎】 要はこれ……。

【加藤】 そうですね。これがまず、今ありますというものです。

【山崎】 政府及び議会の議員さん向けのページなんですけど、そういう方々向けに、NRI というのはこういうものですよというのを説明している文章で、もともと英語は IGF 事務局でつくりました。それを、各国の NRI の人が手分けして、自分たちが使っている言語に訳して、このたび、日本語版が制作できました。

【加藤】 日本語も出たんですね。それをクリックしていただいて。ありがとうございます。

結構写真や図があって、各国とか各地域の NRI ってこういうのですよという説明は大変ありがたい紙だと思います。今後、日本で IGF というときに、この紙を、ある方々にはお示しいただけるといいのかなと思います。この中にはちゃんと技術者コミュニティー、入っていますね。ありがとうございます。

これは御報告ですので、こんなものがあるということで思いますが、先ほどの法人化ということで、実は、日本で NRI として本当にきちっとしたものが今までなかったのを、今回、これができれば正式に表明できると、そういうことになると思います。ありがとうございます。山崎さん。

それじゃ、御質問ございますか、この点について。では、次のことということで、これで一応、今日のアジェンダは全てカバーしたと思うんですが、私、少し書かせていただいているように、先ほど申し上げたとおり、法人化の作業を準備委員会で進めていただいている、もし今、こういう形で進めていて、最終的にこういう形で法人化したいというようなことが御報告できればということで、通常であれば、今日から 4 週間後ということなんですけど、できれば 3 週間後の、4 月 8 日じゃなくて 4 月 1 日に、次回の活発化会議をやらせていただきたいと思っておりますけれども、皆さん、エイプリルフルですけれども、よろしいでしょうか。何か御都合悪いとか、いや、それは何か別の会議にちょうど当たるときとか、何かそんなことございますか。3 週間後の 4 月 1 日月曜日、5 時からということをお願いしたいと思います。特にございませんか。

そのときまでには、準備委員会のほうの準備も、ほぼ完了に近いと思いますので、それ以前でも、いろいろコメント等をいただくようにしたいと思いますけれども、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。もし、御異議なければ、次回は4月1日月曜日ということで、よろしくお願ひします。

時間がもう結構たちましたが、アジェンダとして何か追加することとか、コメントいただくことございますでしょうか。西潟さん、望月さん、総務省のほうから、特にございませんか。

【望月】 大丈夫です。

【加藤】 分かりました。いつも長時間にわたって……。

【望月】 4月1日は今のところ、空いてそうです。

【加藤】 ありがとうございます。長時間、皆さん御参加いただいて、大変ありがとうございます。引き続きお付き合いいただきたいと思います。

それでは、今日はアジェンダ、かなり広くいろいろなことをカバーしたと思います。次回は4月1日ということでよろしくお願ひします。本当に今日は長時間、ありがとうございました。

これでお開きにさせていただきます。ありがとうございました。